

建築文化賞

景観上優れた建築物

建築主：宗教法人回向院
設計：河原泰建築研究室
施工：松井建設株式会社
所在地：市川市国府台5-26-12

自然、伝統、そして近代との融合

回向院市川別院



コンクリートの本堂を木造建築でくるんだ外観

近年の都市部では、寺社建築の多くは防災上コンクリート建てが必要となり、それを機会に近代建築に様変わりして、伝統の建築様式にもさまざまな変化が試みられている。

スイスのロンシャンに建つコルビジェ設計の小教会や、丹下健三設計の東京カテドラル、いずれも近代建築の代表作だが、西欧の石造りと異なり、日本の寺社建築は木造が伝統で、近代建築の冒険をして成功した例は限られる。

恵まれた郊外の緑景に建つ回向院市川別院の改築に、設計者は耐震や蓄熱も配慮したコンクリート造をすっぽり木造でくるむ手法に挑み、外観の自然と伝統の調和を図る一方、本堂内の祭壇の演出は巧みで現代的空間創出を成功させている。

寺とは葬送以外に日常的に出会う習慣が薄れる昨今である。そして、本堂は座式から椅子席に、会葬の効率など現実的課題もあるが、祭壇の定法遵守に加える新たな折り空間の成功は、宗派を超える宗教建築の刺激となろう。

寺はかつて地域の文化拠点であり、イベント拠点であった。茶の湯や和歌俳諧を介しての社交の場であり、子どもの学習にあたる寺子屋として親しまれた。

近頃、京都や奈良の名刹を会場に、大規模な前衛音楽や演劇の試みが増えたが、この良質なモダンデザインの新たな宗教建築を受け入れた寺に似つかわしい現代版文化拠点としての再生も期待したい。

(野口瑠璃)



地域に開放される庭園より見る



本堂内部

(撮影/SS東京・走出直道)